

平成29年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－1号)

農林総合研究センター
平成29年5月18日調査

気象経過

< 平年対比 >

【平均気温】

- ・ 4月上旬は、金沢、輪島ともに高かった（平年差：金沢+1.3℃、輪島+1.1℃）。
- ・ 4月中旬は、金沢、輪島ともに高かった（平年差：金沢+1.5℃、輪島+0.9℃）。
- ・ 4月下旬は、金沢、輪島ともに高かった（平年差：金沢+0.5℃、輪島+0.5℃）。
- ・ 5月上旬は、金沢、輪島ともに高かった（平年差：金沢+0.9℃、輪島+0.6℃）。

【日照時間】

- ・ 4月上旬は、金沢は少なく、輪島は並となった（平年比：金沢 89%、輪島 96%）。
- ・ 4月中旬は、金沢は少なく、輪島は並となった（平年比：金沢 93%、輪島 98%）。
- ・ 4月下旬は、金沢はかなり多く、輪島は多くなった（平年比：金沢 133%、輪島 131%）。
- ・ 5月上旬は、金沢は並、輪島は多くなった（平年比：金沢 103%、輪島 115%）。

【降水量】

- ・ 4月上旬は、金沢は少なく、輪島は並となった（平年比：金沢 46%、輪島 84%）。
- ・ 4月中旬は、金沢、輪島ともに多くなった（平年比：金沢 140%、輪島 189%）。
- ・ 4月下旬は、金沢、輪島ともに並となった（平年比：金沢 111%、輪島 84%）。
- ・ 5月上旬は、金沢、輪島ともに少なかった（平年比：金沢 42%、輪島 39%）。

【1ヶ月予報】

5月18日発表の1か月予報（5月20日～6月19日）では、天気は数日の周期で変わらねでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率60%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

生育概況等

【育 苗】

1. 播種は3月末から開始され出芽揃いは概ね良好であった。4月は気温が平年より高く、日照時間は平年並から多く経過したことから、苗の生育は概ね順調となった。
2. 苗丈はコシヒカリ、ゆめみづほとも平年よりやや長く、第1鞘高長はコシヒカリで長く、ゆめみづほ平年並となった。
「ひやくまん穀」の苗丈および第1鞘高長は、コシヒカリに比べやや短い。
3. 乾物重はコシヒカリが平年並、ゆめみづほは平年より重く、充実度ではコシヒカリが平年並、ゆめみづほは平年に比べやや高くなった。
「ひやくまん穀」の充実度はコシヒカリよりやや高くなっており、苗質は良好であった。
3. 病虫害では、一部で細菌性病害の発生が見られた。

【本田の生育】

1. 田植え始期は、加賀地区で4月28日、能登地区で4月30日、田植盛期は、加賀地区で5月2日、能登地区で5月5日となり、県全体の田植盛期は5月3日と平年並で、前年に比べ1日早くなった。
2. 4月末～5月上旬の強風の影響等から、葉先枯れ等の植痛みが散見され、一部圃場では葉色の発現が遅れたものの、その後回復してきており、生育は概ね順調である。
3. 草丈は、コシヒカリ、ゆめみづほとも平年並となっている。
コシヒカリ：加賀 101% 能登 107% 県平均：103%
ゆめみづほ：加賀 101% 能登 108% 県平均：102%

4. 葉数展開は、コシヒカリ、ゆめみづほとも平年並となっている。
ひやくまん穀の葉数展開は、県平均で3.7葉となっている（中能登、奥能登の観測田のデータは田植前のため除いている）。

コシヒカリ：加賀-0.1葉 能登±0葉 県平均：-0.1葉
ゆめみづほ：加賀-0.1葉 能登+0.4葉 県平均：+0.1葉

5. 分けつの発生は、田植えの早い圃場（4月下旬～5月初旬）で確認されている。

【病害虫の発生状況】

イネミズゾウムシによる食害が県内全域で散見されるほか、一部地域では、イネゾウムシ、イネドロオイムシの食害が散見されている。

また、雑草地における斑点米カメムシ類の生息数はやや多くなっている。

当面の対策

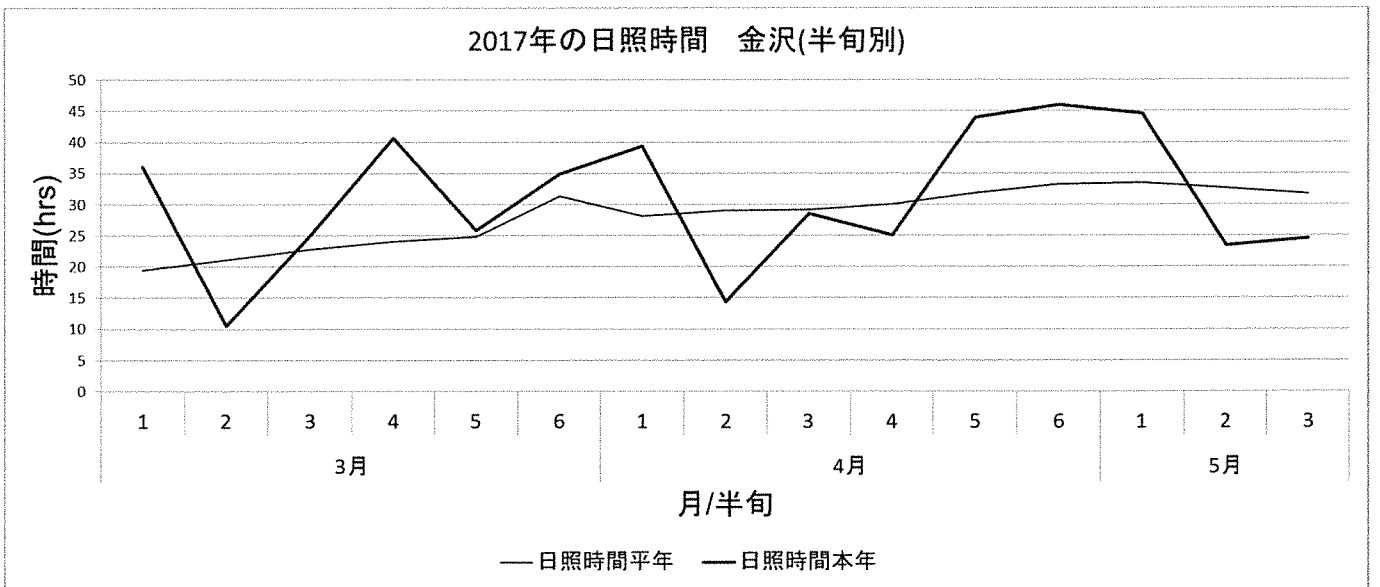
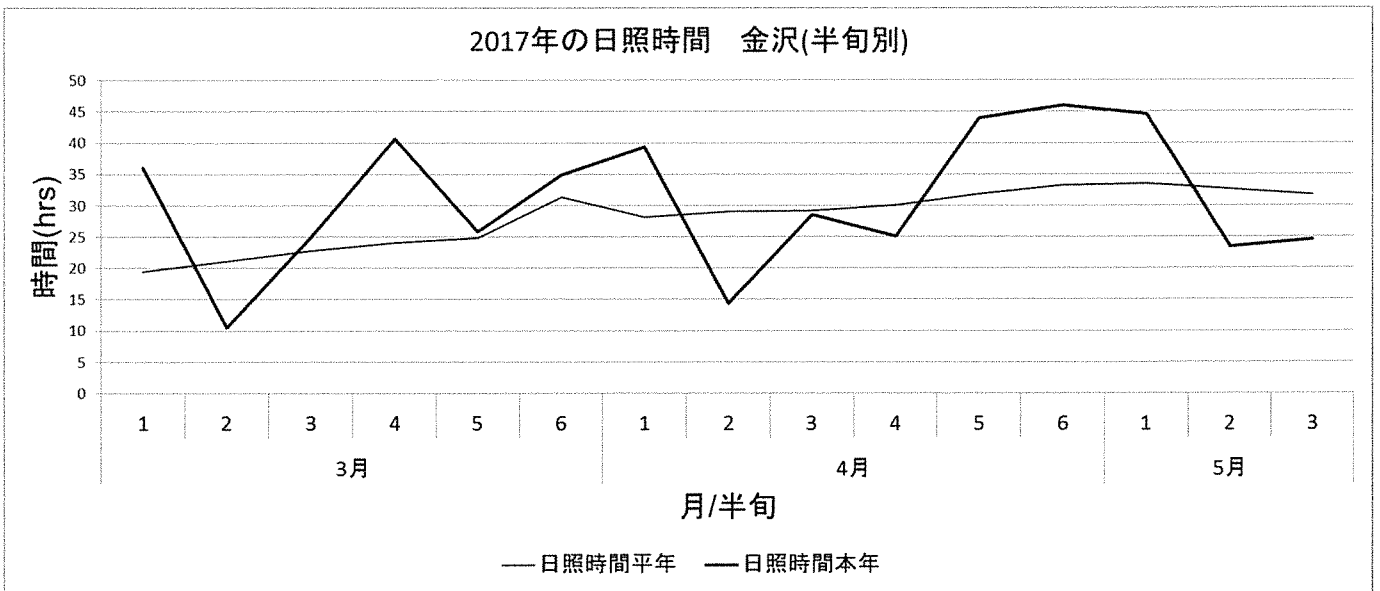
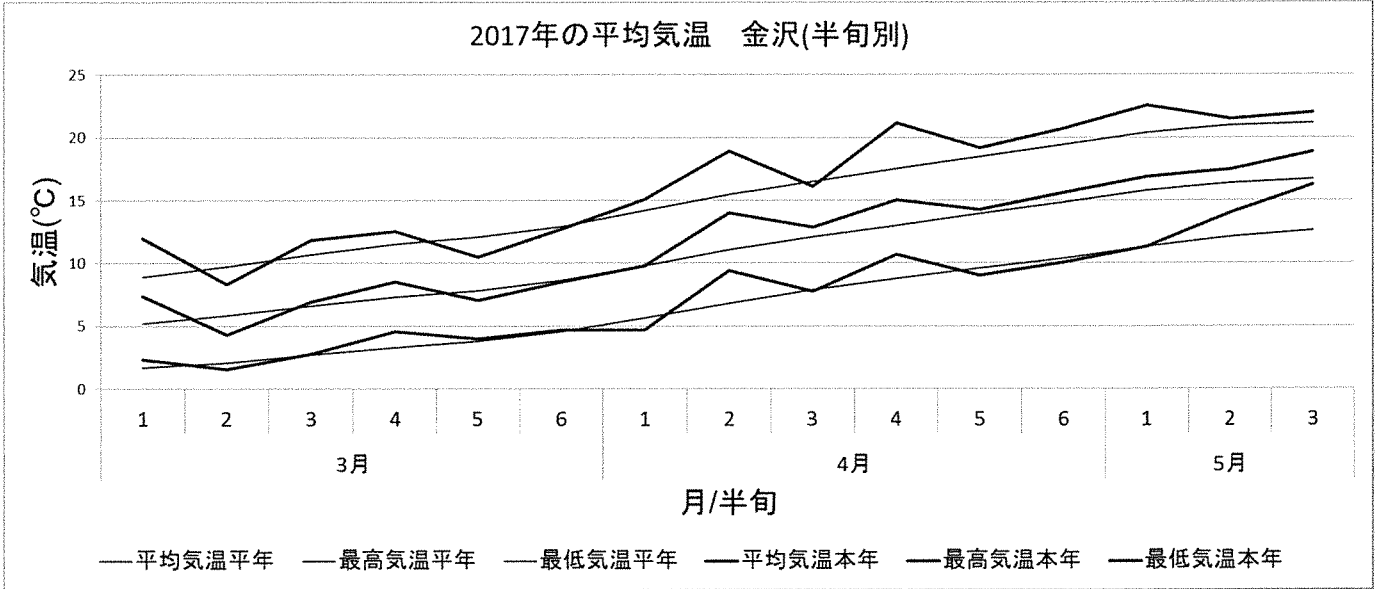
【本田】

1. 浅水管理により、良質分けつの確保に努める。
2. 好天時には軽い田干しを必ず行い土壌中のガスを取り除き、根の健全化を図る。
特に中期除草剤散布前には必ず田干しを行ない、稲体の軟弱化を防止する。
3. 本田除草剤は、これから気温が高くなることが予想されており、ノビエ等雑草の発生が早まる恐れがあることから、適正な時期に遅れずに散布する。なお、除草剤散布後7日間は落水や掛け流しをしないこと。
4. 中干し開始は、田植後1ヶ月を目安に行うが、生育の早い圃場では目標茎数（目標穂数の約70%、1株当たり コシヒカリ：13～15本、ゆめみづほ：15～17本）に達したら田植後1ヶ月を待たずに直ちに開始する。

【病害虫】

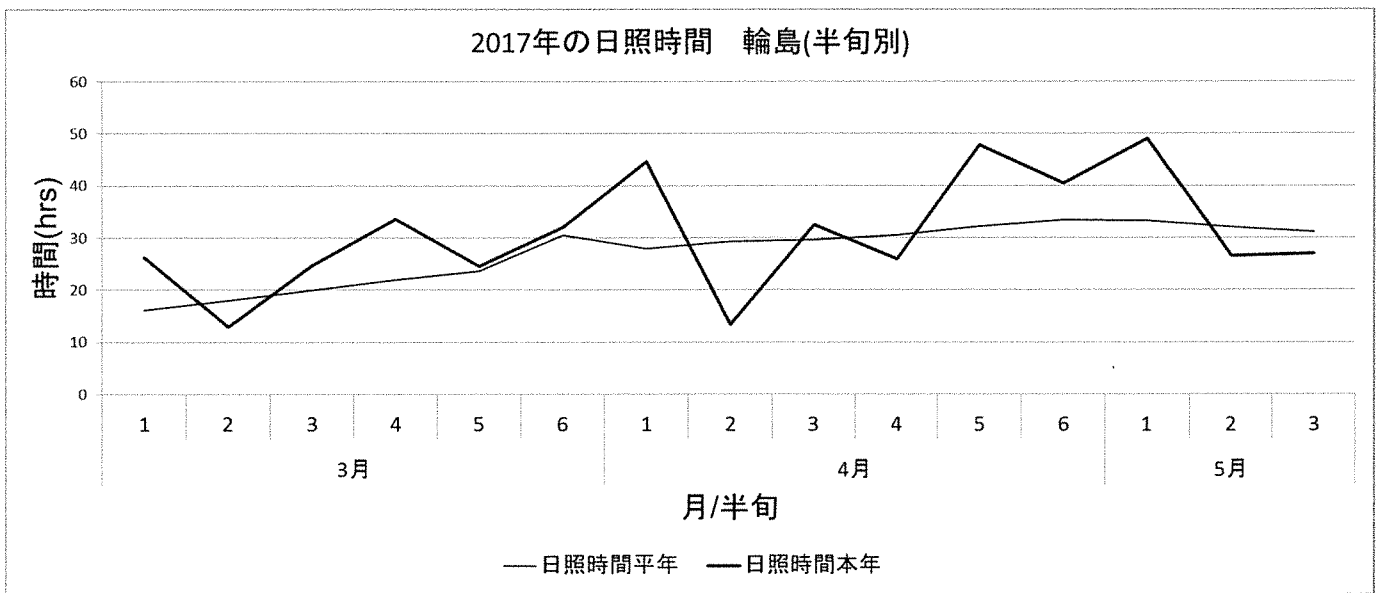
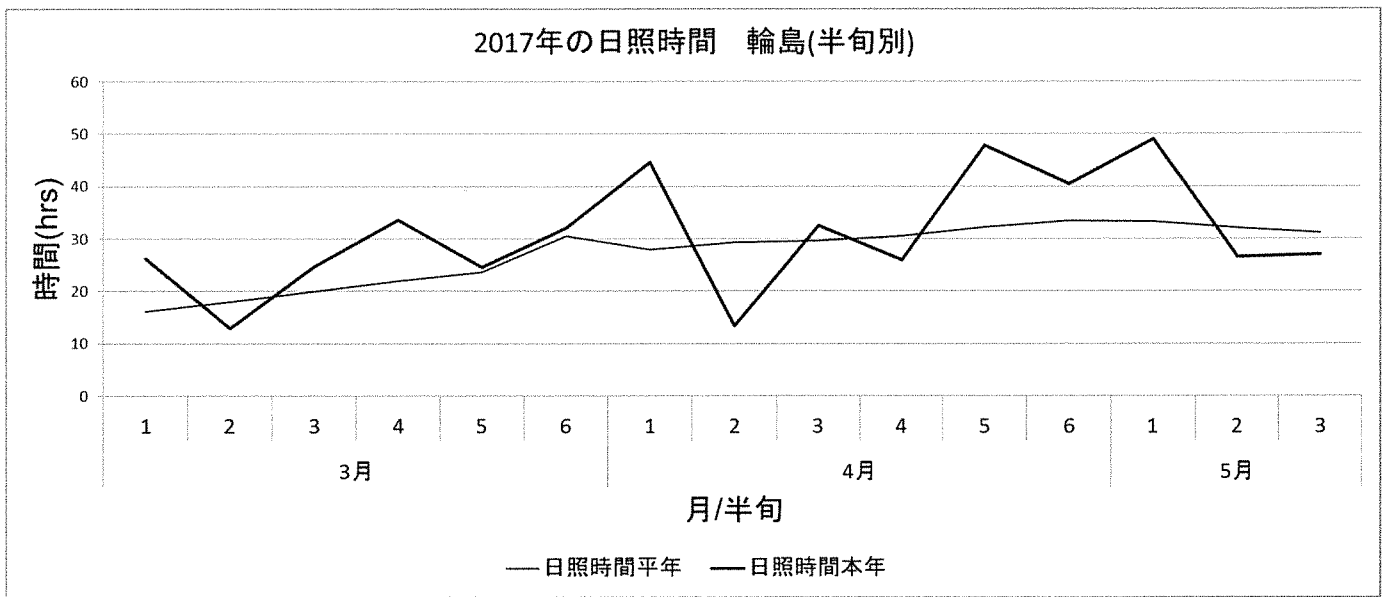
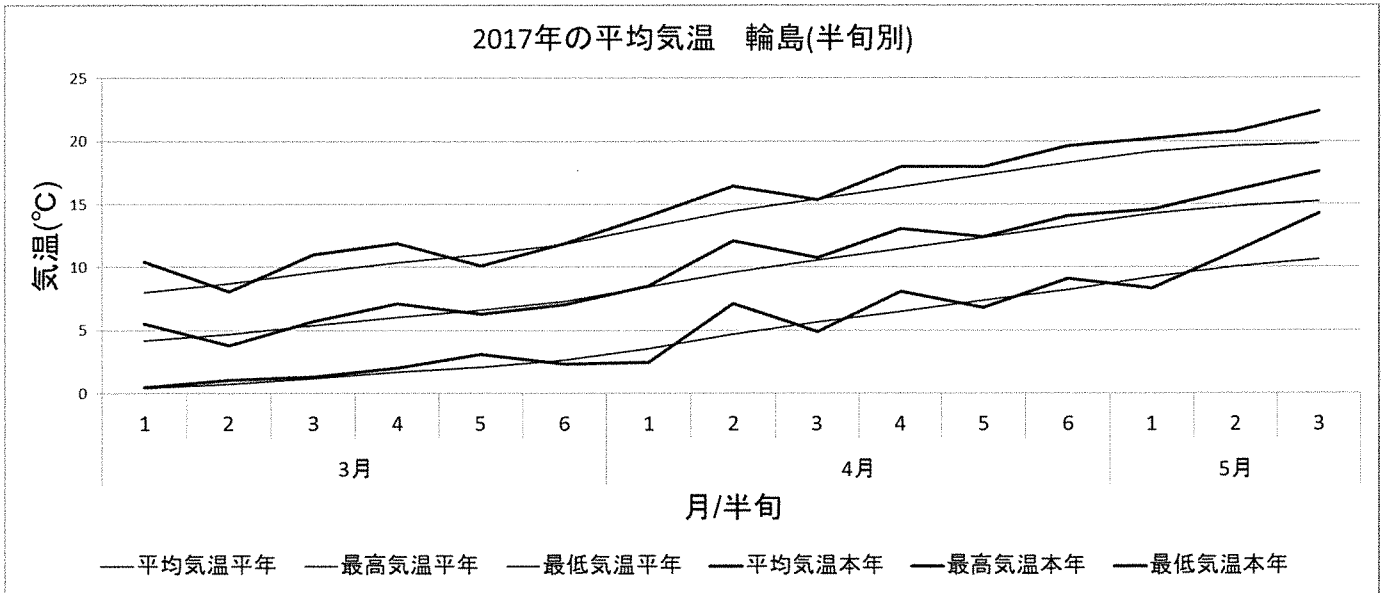
1. 補植苗の本田放置は、葉いもちの発生源となるので早急に取り除く。
2. イネミズゾウムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、成虫が1株当たり0.3頭以上認められたら、湛水状態で粒剤散布により防除を行う。
3. イネドロオイムシの防除（箱施薬）をしていない圃場では、1株当たり1卵塊以上認められたら、湛水状態で粒剤散布により防除を行う。
4. 斑点米カメムシ類の発生を防止するため、生息場所となる農道、畦畔、休耕田及び遊休地等の雑草地の除草を徹底する。
なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

気象経過イメージ（金沢气象台）



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成

※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値

※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い